

平成20年度 決算 報告

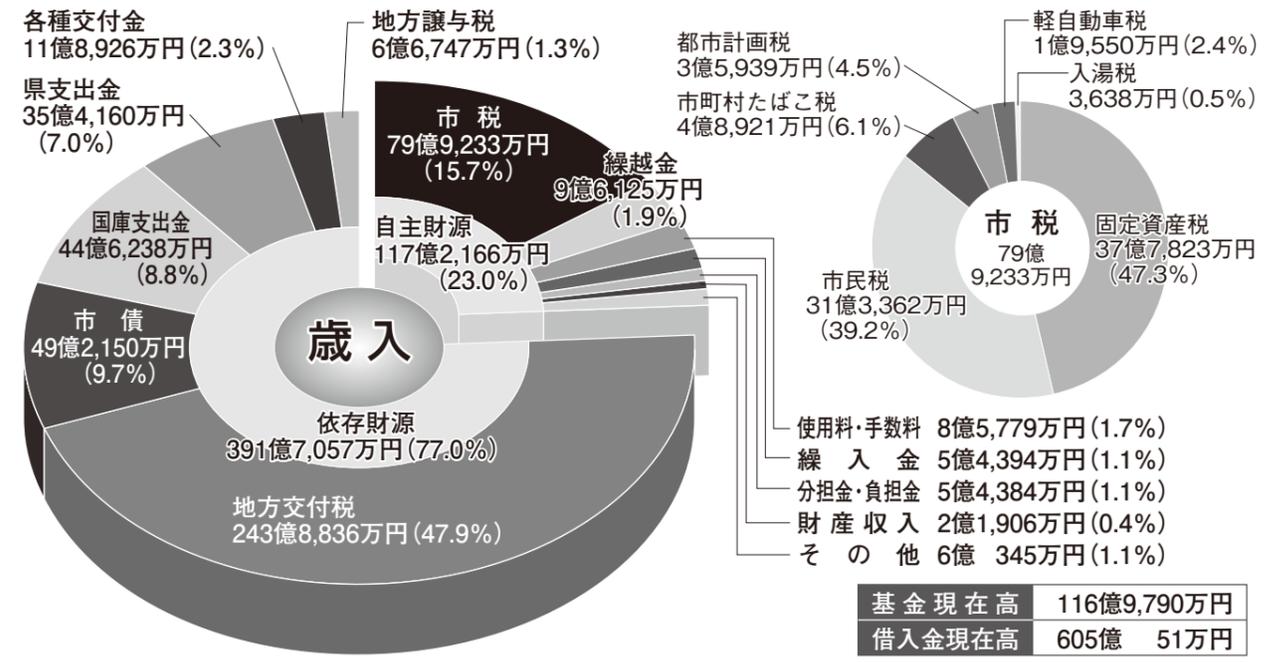
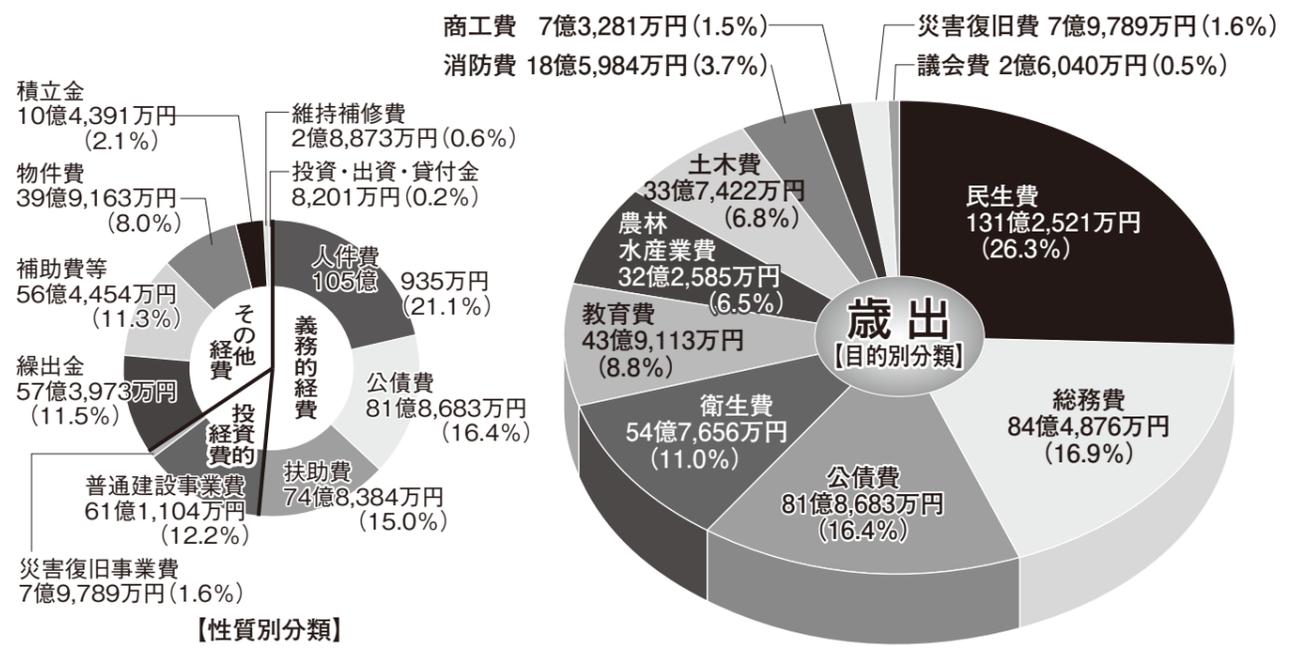
平成20年度の決算が、平成21年第5回市議会定例会で認定されました。皆さんに納めていただいた大切な税金や、国や県からの補助金がどのように使われたのかを知っていただくため、その概要についてお知らせします（※金額は万円未満を四捨五入）。
※詳しいことは、本庁・財政課財政係 ☎ 1111内線1364へ。

歳出総額 498億7,950万円

普通会計

歳入総額 508億9,223万円

※普通会計…全国共通のルールでつくられた会計区分。一般会計と特別会計の一部（本市の場合は歯科診療所・畜場事業）を合算したものの。



歳出を市民1人当たりになると

52万7,686円

普通会計の歳出を市民1人当たりへ換算すると52万7,686円使ったこととなります（平成21年3月31日現在の住民基本台帳9万4,525人で計算）。市税の収入は市民1人当たり8万4,553円ですから、不足する44万3,133円は地方交付税や国庫支出金、県支出金などで補っていることとなります。

民生費 13万8,854円	総務費 8万9,381円	公債費 8万6,610円	衛生費 5万7,938円	教育費 4万6,455円
農林水産業費 3万4,127円	土木費 3万5,697円	消防費 1万9,676円	商工費 7,752円	その他 ・議会費 ・災害復旧費 1万1,196円

歳入の約77%が依存財源

平成20年度普通会計の歳入の決算額は、508億9,223万円となりました。財源別に見ると、市税などの自主財源は17億2,166万円（23.0%）。一方、地方交付税や国庫支出金などの依存財源は391億7,057万円（77.0%）を占めています。今後、増大する行政需要に対応するためには、歳入の確保を図り、財政の健全化を進めていかなければなりません。

歳入のトップは民生費

普通会計の歳入の決算額は、498億7,950万円となりました。目的別で見ると、一番多く使われたのは民生費で131億2,521万円（26.3%）。続いて総務費、公債費、衛生費、教育費、土木費の順となっています。性質別では、人件費や扶助費などの義務的経費が全体の約半数を占め、261億8,002万円（52.5%）となっています。

なお、歳入の詳細については14ページに掲載しています。

- ▼ **民生費**：福祉全般の事務、事業に使ったお金。
- ▼ **総務費**：住民票発行事務や課税徴収、交通安全対策・選挙事務、庁舎管理などに使ったお金。
- ▼ **公債費**：借り入れたお金を返済するために支払ったお金。
- ▼ **衛生費**：保健事業やごみ処理など、安全で衛生的な生活のために使ったお金。
- ▼ **教育費**：幼稚園や小・中学校の管理、公民館や図書館などの事業や体育振興に使ったお金。
- ▼ **農林水産業費**：農林水産業などの振興のために使ったお金。
- ▼ **土木費**：道路や公園の整備、市営住宅の管理などに使ったお金。
- ▼ **消防費**：消防、防災施設の設置、天草広域連合への負担金や消防団活動などに使ったお金。
- ▼ **商工費**：商工業および観光の振興に使ったお金。
- ▼ **人件費**：市議会議員や市職員などの報酬や給与。
- ▼ **扶助費**：障がい者や高齢者、生活困窮者などの福祉向上のために使ったお金。
- ▼ **普通建設事業費**：道路や公園などの施設の整備などに使ったお金。
- ▼ **繰出金**：下水道や国民健康保険などの特別会計に支出したお金。
- ▼ **補助費等**：外部団体などの運営補助などに支払ったお金。
- ▼ **物件費**：旅費、委託料、物品の購入などに使ったお金。

- ### 用語の説明
- ▼ **「歳入」**
▼ **自主財源**：市税や負担金などで、市が自主的に収入して得るもの。
 - ▼ **依存財源**：地方交付税、国庫支出金、市債など。
 - ▼ **使用料・手数料**：市の施設を使ったり、住民票の交付を受けたらりしたときの料金。
 - ▼ **分担金・負担金**：福祉サービス（老人ホームや保育所入所）など特定の利益を受けた人から徴収したお金。
 - ▼ **地方交付税**：所得税など、国が徴収した税金の中から、市の行政規模に応じて交付されたお金。
 - ▼ **市債**：国や県、金融機関から借り入れたお金。
 - ▼ **国庫支出金、県支出金**：公共事業など特定の目的の財源として、国・県から交付されたお金。